



# OECC LETTER

2025年4月発行

---

OECCの動きをお伝えするメディアです。

今年から創刊した『OECC LETTER』。

第2号をお届けします。

OECCの動きと気づきを感じていただけましたら、幸いです。

---

## CONTENTS

- ・新年度のごあいさつ
  - ・特集 循環経済推進への貢献  
～第12回アジア太平洋3R・循環経済推進フォーラム～
  - ・特集 ウズベキスタンJCMセミナー／インド環境ビジネス促進セミナー
  - ・OECC Webサイト 注目トピックス
  - ・海外出張 研究員こぼれ話
- 



### 新年度のごあいさつ

「我が国の海外環境開発協力分野における中核的組織に」

OECC理事長 竹本和彦

OECCは、気候変動対策や資源循環に加え、生物多様性保全など国際社会が直面する地球環境問題への対応や持続可能な社会形成に向けた海外環境開発協力分野において幅広い活動を通じて国際社会へ貢献していくことを目指しています。

本年1月には、マニラにおいて開催された「第2回日本・フィリピン環境ウィーク」においてOECCは、会議全体の事務局として両国の関連企業間コミュニケーションを促進するなど両国の環境開発分野の協力が将来的に発展することに貢献しています。

また3月には、インド・ジャイプールにて開催された「アジア太平洋3R・循環経済推進フォーラム第12回会合」で、気候変動対策と循環経済の統合的な取組をテーマとするパネルディスカッションの企画や実施支援などを通じ、この分野の議論の進展に貢献することができました。

さらに、IPCC「気候変動と都市に関する特別報告書」の第一回執筆者会議(3月中旬、大阪)にタイミングを合わせて開催された「気候変動対策における都市の役割に関するワークショップ」(IIASAと環境省の共催)では、私自身が本ワークショップの共同議長として議論の方向付けを行ったところです。

加えて、4月上旬に開催された「サマルカンド気候フォーラム」に参加し、中央アジアにおける気候変動への適応・乾燥地問題などへの対処方策に関するハイレベルの議論に参加するとともに、JCMプログラムの円滑な推進に向け、地元関係者との意見交換を行ってきました。

このようにOECCは、世界が脱炭素・持続可能な社会の実現に向けダイナミックな変革を遂げる中、これまで培ってきた知見や専門性をフルに発揮するとともに、今後ともさらなる研鑽を積み重ね、我が国の海外環境開発協力分野における中核的組織に相応しい役割を果たしてまいります。

本年度も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

※Webサイトの「理事長メッセージ」でも、本稿をご覧ください。

◎特集 循環経済推進への貢献  
～第12回アジア太平洋3R・循環経済推進フォーラム～  
(OECC LETTER向けダイジェスト版)

OECC研究員 松藤佑介 成瀬宏 新野拓己



2025年3月3日から3月5日、インド・ジャイプールにおいて、第12回アジア太平洋3R・循環経済推進フォーラムが開催されました。アジア太平洋地域における3Rおよび循環経済の推進に貢献する制度や技術の情報共有、ハイレベル対話の推進を目的に、約1000名が参加しました。OECCは運営を支援するとともに環境省主催のサイドイベントを開催しました。国際展示会も支援し、インドと日本のネットワーク作りを担いました。

第12回アジア太平洋3R・循環経済推進フォーラムとは

アジア太平洋3R・循環経済推進フォーラムは、アジア各国における3R推進による循環型社会の構築に向け、日本国環境省の提唱により2009年11月に前身が設立されました。

今回はインドがホストとなり、日本国環境省(MOEJ)ほか、インド政府、国連関連機関が主催を務めました。SDGsとカーボン・ニュートラルの達成に向けた循環型社会の実現のため活発な議論が行われ、2025年から2035年の10年間における3R・循環経済の推進に関する目標を定めた「3R・循環経済に関するジャイプール宣言」が採択されました。

## サイドイベントの開催：循環型社会の加速／廃棄物資源分野の脱炭素技術

「循環型社会の加速」と題するイベントでは、都市や自治体による取組と成果を共有し、成功の要因について議論を深めました。自治体の中には、廃棄物削減、資源効率化、脱炭素化において循環型社会の形成へ大きな進歩を遂げたところもあり、これらの成功モデルは、都市・自治体が循環型社会への移行をいかにリードするか、貴重な示唆を与えます。

本セッションでは、他の都市への導入・再現性を高め、循環型社会への移行を加速させることを目的に、鹿児島県大崎町のリサイクルの取組と、インドネシアに拠点を置きコミュニティを支援しているKopernikによる循環経済に関する事例が紹介されました。

パネルディスカッションには、大崎町、Kopernikに加えてUN-Habitat、UNIDO、ラジャスタン州公害防止委員会、ジャイプール市が参加しました。廃棄物処理に関する実状と課題・取組、循環経済の推進に関する議論が行われ、地域特性にソリューションを適合させることが重要であり、コラボレーション、パートナーシップの推進が肝要と示されました。



別イベント「循環経済の実現に向けた廃棄物・資源分野における脱炭素技術」では、日本の経験を元に、ネットゼロ達成、循環経済の実現を目指した最新の廃棄物処理およびエネルギー回収・利用への取組を提示しました。

日本企業からは、廃棄物発電、焼却熱利用技術、CCUS、埋立工法（福岡方式）、浄化槽、下水汚泥処理・固形燃料化、廃棄物管理の総合コンサルティングといった技術や経験が紹介されました。これらは世界に誇れるもので、インドおよび多くの国・都市で抱える課題解決に貢献することも示しました。

## 国際展示会の開催と日本企業の出展

インド政府協力のもと、資源循環分野における国際展示会も開催し、廃棄物発電や浄化槽、計測・モニタリングなどの技術を有する日本企業の出展がありました。インド住宅都市省の大臣や閣外大臣、ラジャスタン州の州首相、インド環境森林気候変動省の大臣などに、技術や活動を直接紹介する機会を得られました。

終わりに

インド国内では脱プラスチックに向けて使い捨てプラスチック製品を禁止するなど、政府の積極的な施策展開もあり、市民の理解が進み、プラスチックからの代替やりサイクルの取組が進展しているようでした。日本の政府・企業への期待も非常に大きく、今後の協業の可能性を高く感じることができました。3R・循環経済の分野においても、官民が一体となった取組を推進する懸け橋となるよう、OECCは引き続き貢献していきます。

※この記事は、OECC LETTER向けのダイジェスト版です。全文はWebサイト「活動報告」に掲載しています。下記からぜひご覧ください。

## ◎特集 ウズベキスタンJCMセミナー／インド環境ビジネス促進セミナー

OECC研究員 隅越昌枝 高木晴乃 露澤音々

OECCは2025年2月27日ウズベキスタンにて開かれたJCMセミナー、および3月4日、インドにて開催されたJCM(二国間クレジット制度)関連セミナーにて、事務局を務めました。

両セミナーともOECC研究員が登壇し、JCM案件形成におけるポイントについて紹介しました。各イベントにおける取り組みをご報告します。

### ウズベキスタンJCMセミナー：初の現地開催



[動画](#)で現場の雰囲気をお伝えします(動画作成:ウズベキスタン経済財務省)

2月27日にウズベキスタン・タシケントで実施されたセミナーは、ウズベキスタンがJCMのパートナー国となって以来初めて、現地で開催されたJCMセミナーとなりました。目指したのは、ウズベキスタンにおけるJCMの普及とJCM事業形成の推進。ウズベキスタン政府から脱炭素目標やJCMへの期待、カーボンマーケットに関して紹介があり、日本からはJCMの基本概要や優良事例、資金スキーム等を説明しました。閉会後は、ビジネスマッチングの機会を設け、活発な交流が行われました。

対面参加者は約150名、オンラインでも50名ほどの参加があり、関心の高さが伺えました。

OECCは事務局として、イベント全体の調整、プログラム企画、参加者対応、会場運営などを担い、環境技術や課題のソリューションへの理解促進や技術交流を円滑に進める基盤を提供しました。

セミナーではOECC研究員が、JCM事業形成におけるポイントをお伝えしました。講演後、多くの参加者が研究員のもとに質問を寄せ、前向きな議論が続けられました。

今回のセミナーをきっかけに、OECCのできる貢献をしながら、今後も関係省庁や機関等とスムーズな連携を図り、ウズベキスタンにおけるJCM案件形成を一層推進してまいります。

参考：[【開催報告】ウズベキスタンJCMセミナー\(炭素市場エクスプレス\)](#)

日本・インド環境ビジネス促進セミナー：JCM締結に向けた期待が示される



[動画](#)で現場の雰囲気をお伝えします

3月4日にインド・ニューデリーで行われたセミナーでは、現地の環境問題の解決と持続可能な社会の構築に貢献する技術や取り組みについて情報が提供されました。対面のみで開催でしたが、登壇者も含め約120名の参加がありました。

はじめに、JCMの概要、プロジェクト開発の流れ、FS調査および資金支援事業の事例についての発表がありました。OECC研究員も、JCM案件形成について紹介し、参加者からはJCMに関する二国間文書の署名へ向けた期待が示されました。

続けて日本およびインド企業から有望な技術や取り組みに関してビジネスピッチが行われました。パネルディスカッションでは、脱炭素社会や持続可能な社会の実現に向けた日本・インドの協力の可能性、インドのネットゼロ社会に向けた技術協力の役割について政府機関・民間企業・開発機関を交えて議論が交わされました。

セミナー後のビジネスネットワーキングイベントでは、両国の企業間での商談が盛んに行われました。

セミナー前後の日程でOECCは、環境省関係者ととも現地の日本企業やインド環境・森林・気候変動省等を訪問し、JCMの可能性についてヒアリングしました。インドではすでに、多くの脱炭素技術が商用化フェーズに入っているため、追加性がとても重視されています。JCMに求められていることは、脱炭素が難しいセクターにて難易度の高い脱炭素技術の導入を可能とすることや固有性の高い技術の実装、そしてCAPEXの低減などと、伺いました。

現地の日本企業は補助金やクレジットの将来価値に期待している模様です。

OECCは引き続き、日本・インド間におけるJCMに関する二国間文書の署名を支援してまいります。

参考：[【開催報告】日本・インド環境ビジネス促進セミナー\(炭素市場エクスプレス\)](#)

---

## OECC Webサイト 注目トピックス

### [活動報告](#)

#### 活動報告

Activity Report



記事を探す



OECCが取り組むさまざまなプロジェクトを職員自ら発信。最新は、2025年3月に行われたアジア太平洋3R・循環経済推進フォーラムの活動です。

### [職員の声](#)

#### 職員の声

Voice

働く場所は自由  
挑む舞台は世界

小林 邦彦  
業務部 研究員  
入社年：2022年



OECCで働く職員の声を、順次掲載しています。最新は関西在住の研究員が登場。「働く場所は自由、挑む舞台は世界」です。

## [日本・フィリピン環境ウィーク動画](#)



1月にマニラで開催された、第2回日本・フィリピン環境ウィークの雰囲気や伝わる動画を、Webサイトで紹介しています。1000人以上が参加した会場の活気を、ぜひ感じてみてください。

## [JCCI国際セミナー動画](#)



2月に開催され、OECCが事務局を務めた「JICAクリーン・シティ・イニシアティブ」国際セミナーの動画をWebサイトで紹介しています。さまざまなテーマのセミナーを視聴いただけます。

---

### 海外出張 研究員こぼれ話

ロストバゲージ！ 対策には位置情報探索ツールも

OECC事務局長 松藤佑介

今回の特集記事でご紹介した、インド・ジャイプールでのアジア太平洋3R・循環経済推進フォーラムに出張した職員。帰国便へのトランジットのためデリーでチェックインした際、預入荷物の一部が到着していないことが判明しました。おかげで空港内を駆けずり回るはめに。

気温の高いインドから成田空港に到着したのは3月初旬で、まだ肌寒かったころです。冬物コートは、ロストしたスーツケースの中。「日本は寒い」と、文字通り肌身にしました。

この経験を所内で共有したところ、アドバイスが。「位置情報探索ツールを付けていたら、行方不明になった荷物の情報が早めに分かるかもしれません。私の友達はこのツールで、成田ではなくエジプトに行ってしまったことを発見し、エアラインに証拠を送って対応してもらいました」

経験から学ぶ日々です。

---

本メールマガジン「OECC LETTER」は、OECC会員企業・団体のみなさま、配信ご希望の連絡をいただいた方、およびOECC職員がごあいさつさせていただいた方などにお送りしています。

配信停止: [こちら](#) のフォームからご連絡ください

個人情報保護方針: [こちら](#) をご覧ください



発行：一般社団法人 海外環境協力センター(OECC)  
東京都千代田区内幸町1-3-1 幸ビルディング3階

2025年4月

FOLLOW US! (OECC広報アカウント)

